

今号では、夏に多い子どもの皮膚の病気をとりあげてみます。  
水遊びの時期、感染の危険が高い病気は早めに治しておきたいですね。

## とびひ(伝染性膿痂疹)

### かきこわすと、全身に広がります

あせもや虫刺されなどをかきむしったところに、バイ菌が入りこんで炎症を起こし、かゆみのある水疱やかさぶたをつくります。かきこわすと、全身に広がります。感染力が強いので、早めに受診しましょう。

### ほかの人にもうつります

この水疱はかくと破れて、液がついたところにまた水疱ができます。  
ほかの人にもうつるので、完全に治るまではプールはがまんしましょう。



### 抗生物質入り軟膏を根気よく

抗生物質の飲み薬や軟膏で治療します。手に石けんをつけて、かさぶたや水疱をやさしく洗い、よく乾かしてから軟膏をぬります。完全に治るまで根気よく治療を続けてください。

### 手洗い・つめきり

とびひを全身に広げないためには、水疱をかきこわさないように、また、汚い手で湿疹や虫刺されをかきむしらないようにすることが大切。日ごろから、手洗いをよくして、つめを短く切りましょう。治るまではシャワー浴にしましょう。

## 水いぼ

### 大きいものは、表面にツヤとくぼみ

1~6歳くらいの子供によくできる、伝染性の強い水いぼです。真ん中にくぼみあり、表面がツヤツヤしています。わきの下など、皮膚がすれ合うところによくできますが、ほとんどの場合かゆみや痛みはありません。

### つぶすと白いかたまりが

水いぼをつぶすと、白くて小さい粒が出てきます。これがウイルスのかたまり。こすれたりしていぼが破れると、ウイルスが飛び散ってほかのところにつき、水いぼが増えていきます。

### プールなど、治るまでは要注意

プールやお風呂など、肌がふれあう場所で感染しやすいので、治るまでは気をつけてください。アトピー性皮膚炎の子はうつりやすいので、特に注意が必要です。

### 放っておいても治りますが・・・

ウイルスに対し免疫ができてくるので、放っておいても自然に治りますが、長くかかるようなら受診しましょう。痛み止めの薬を貼っておき、ピンセットでつまみとります。水いぼが小さくて少ないうちに処置したほうが、よいかもしれません。

